

平成 29 年 4 月から 第三小学校に 特別支援学級「ひまわり学級」を新設します

1 新設の背景

本市の小学校の特別支援学級（障害種別：知的障害）の児童数は、平成 22 年度は 35 名でしたが、それ以降増加傾向にあり、平成 28 年度は 50 名となっています。本市では、大野田小学校と境南小学校の 2 校に特別支援学級（むらさき学級・けやき学級）を設置していますが、平成 28 年度の設置校 1 校あたりの児童数は 25.0 名で、都内平均の 17.0 名を大きく上回っており、学級運営がハード面・ソフト面の双方で厳しい状況となっています。

2 設置校

本市においては、地域リハビリテーションの理念に基づき、東部地区・中央地区・西部地区の三地域に基盤を置いて、福祉やまちづくりの施策を進めています。現在、特別支援学級は中央地区の大野田小学校、西部地区の境南小学校に設置されていることから、地域の中で児童の成長を支えていくため、東部地区の第三小学校に特別支援学級「ひまわり学級」（障害種別：知的障害）を新設します。

3 学区域

	平成 28 年度までの学区	平成 29 年度 新設後の学区
大野田小学校 むらさき学級	第一小・第三小・第四小・ 大野田小・本宿小・井之頭小	第一小(中町)・大野田小・井之頭小(中町)・ 第五小・千川小
境南小学校 けやき学級	第二小・第五小・境南小・ 千川小・関前南小・桜野小	第二小・境南小・関前南小・桜野小
第三小学校 ひまわり学級		第一小(吉祥寺本町)・第三小・第四小・ 本宿小・井之頭小(吉祥寺本町・御殿山)



4 学級概要

ひまわり学級は、学籍を置き毎日通う固定学級です（週 1 回程度通う特別支援教室とは異なります）。児童の状態や教科に合わせて、小グループを編成して学習を進めます。通常の学級との交流や共同学習などを通して、お互いの理解を深める活動も行います。第三小学校の校舎 1 階西側に設置します。



特別支援教育ニュース（保護者の皆様へのお知らせ） 平成 29 年 4 月から 小学校の通級指導学級 「はなみずき学級・かわせみ学級・こぶし学級」が 「特別支援教室」に変わります

1 これまでの通級指導体制

現在、小学校の通常の学級に在籍している発達障害等のある児童の一部（平成 28 年度 約 130 名）は、週 1 回程度、在籍学級の授業を抜けて、第四小学校・井之頭小学校・桜野小学校に設置されている情緒障害等通級指導学級（はなみずき学級・かわせみ学級・こぶし学級）で特別な指導を受けています。

2 特別支援教室導入の背景

東京都教育委員会が実施した調査では、発達障害の可能性のある児童は本市で全児童の 6.5% おり、すべての小学校に在籍していると推測されます。これまでの指導体制では、児童の在籍校に通級指導学級が設置されていない場合、他校への通級に抵抗感や負担感が生じる、児童の在籍学級と通級指導学級の連携が図りにくいなどの課題がありました。

これまでの通級指導学級体制



3 特別支援教室の導入と効果

東京都の制度改正により、平成 28 年度から平成 30 年度にかけて、都内の全公立小学校に特別支援教室が設置され、教員が児童の在籍校を巡回する形態に変更になります。武蔵野市では平成 29 年 4 月から本格導入します。対象児童は通常の学級に在籍し週 1 回程度特別支援教室に通います。

今後の特別支援教室体制



【特別支援教室導入により期待される効果】

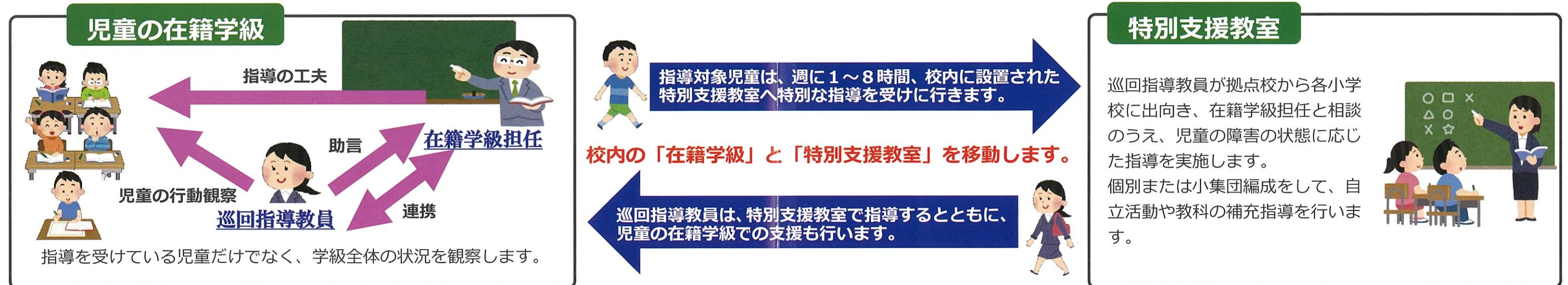
- これまでの通級指導学級による指導（個別指導・小集団指導）をすべての小学校で実施することで、より多くの児童が支援を受けられるようになる。
- 児童の在籍学級担任と巡回指導教員との連携が緊密になることで、児童の状態や在籍学級の状況により即した指導が可能になり、児童の学力や在籍学級における集団適応能力の伸長が図られる。
- 教職員や保護者が特別支援教育や発達障害を知る機会が増え、理解促進が図られる。

4 武蔵野市における特別支援教室のグループ編成

特別支援教室の名称	拠点校	巡回校
はなみずき教室	第四小学校	第三小学校・大野田小学校・本宿小学校
かわせみ教室	井之頭小学校	第一小学校・第五小学校・関前南小学校
こぶし教室	桜野小学校	第二小学校・境南小学校・千川小学校

※第四小・井之頭小・桜野小に在籍する対象児童は自校の特別支援教室に通います。

各小学校における特別支援教室の指導・支援の体制



◎特別支援教室の導入を円滑に行うため、新規に特別支援教室専門員の配置と臨床発達心理士等の巡回を行います。

特別支援教室専門員(非常勤)

新規



各校で週4～5日勤務します。巡回指導教員や特別支援教育コーディネーター、在籍学級担任等との連絡調整、個別の課題に応じた教材の作製、児童の行動観察や指導記録の作成、学習支援などを行います。

臨床発達心理士等(巡回)

新規



年10回学校を訪問します。児童の行動観察を行い、障害の状態を把握し、巡回指導教員・在籍学級担任等に指導上の配慮について助言します。臨床発達心理士・特別支援教育士・学校心理士のいずれかの資格取得者です。

特別支援教室で行う指導とは…

◎通常の学級に在籍する発達障害等（高機能自閉症、アスペルガー症候群、注意欠陥多動性障害、学習障害等）があり、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする児童に対し、障害の状態に応じて行う「自立活動」や「教科の補充」です。

	高機能自閉症・アスペルガー症候群	注意欠陥多動性障害 (ADHD)	学習障害 (LD)
学習場面で現れる課題【例】	<ul style="list-style-type: none"> ◆コミュニケーションがうまく図れない。 ◆相手の立場になって考えることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆注意を集中し続けることが難しい。 ◆授業中に席を離れてしまったり、質問が終わらないうちに答えてしまったり、他の人がしていることを邪魔してしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆音読が苦手である。 ◆書くことが苦手である。 ◆計算が苦手である。
指導事例	<ul style="list-style-type: none"> ◆ロールプレイ等で、適切な会話ができるようにするための指導 ◆物語の登場人物の気持ちを考えるなどの指導 	<ul style="list-style-type: none"> ◆必要な情報を少なくし、いくつかの情報の中から必要なものに注目できるようにするための指導 ◆順番に人の話を聞くなど、ルールに従って行動できるようにするための指導 	<ul style="list-style-type: none"> ◆自分に合った学習方法を習得し、その方法を取り入れて、国語や算数等の学習ができるようにするための指導

特別支援教室 Q&A

Q1 特別支援教室での指導はどのようにしたら受けられるのですか？

A1 在籍校と保護者が相談のうえ、校長が教育委員会に申請します。発達検査や行動観察を経て、教育委員会の設置する委員会で適否を判定します。

Q2 「自立活動」「教科の補充」は、どのような指導ですか？

A2 「自立活動」は、身体感覚、社会ルールを理解、コミュニケーション力等を育てる指導です。
「教科の補充」は、児童の認知の特性に応じた方法による国語や算数等の教科の指導です。

Q3 武蔵野市では、どの学校が巡回指導教員の拠点校になるのですか？

A3 情緒障害等通級指導学級を設置している第四小、井之頭小、桜野小を拠点校とします。一つの拠点校に4～6名の巡回指導教員を配置して、多様な巡回指導と専門性の維持向上を可能にします。